

## 自主企画演奏会 ガイドライン

### ○基本1 … 実施すべき四つのポイント

1. 「3密」を避ける … 演奏者の待機場所、待機時、舞台上および舞台付近、退出時  
来場者の入場待機時と入場時、ロビー等、客席、お手洗い、退出時
2. 関係者全員がマスクを着用する
3. 消毒と換気を行う
4. トレーサビリティ（感染が発生した場合の追跡調査を可能にする）を確保する

### ○基本2 … 次の2つの資料に記載されている内容を参考にして個別の催しを企画すること

- イ .「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（クラシック音楽公演運営推進協議会作成 令和2年12月1日改訂版 全12頁 <https://www.classic.or.jp/2020/12/blog-post.html>)  
… 本資料は政府、専門家会議、関係団体などが公表したいくつかの方針や提言を基に、主催者が留意すべき点をまとめたものである。
- ロ .「クラシック音楽演奏・鑑賞にともなう飛沫感染リスク検証実験」（前記協議会および日本管打・吹奏楽学会が主催したクリーンルームにおける実験の報告書 2020年8月17日付 全107画面 <http://www.jas-wind.net/>)  
… 本資料は楽器ごとに行った実験の報告書であり、各楽器の演奏に関わる実験の結果と考察が述べられているとともに、実験内容とは直接の関係は無いが、コンサートの開催に際して留意すべき点を丁寧にまとめている。

### ○コンサートを行うために

#### 1. 対策および規制

##### ① 会場の設営および運営に関すること

- 来場者の募集人数は平時の収容定員の50%以内とする。
- 会場の要所にアルコール消毒液を配置する。
- 来場者はマスク着用とする。また、飲食を伴う場合、マスクを外している間の会話を避けるよう客席配置等を工夫する。
- 来場者が入れ替わる場合は、可能な限りその時点で座席の消毒を行う。
- 随時会場内の換気を行う（開演前や休憩時には出入り口・窓を開放する）。
- 入場前の来場者の待機場所において、十分な間隔（出来るだけ1m以上）を確保する等、密の回避策を立てる。



- 舞台から最前列の観客まで最低 2m の距離を確保する。
- 屋外の会場にあっては人と人との距離を十分に確保すること（出来るだけ2m）。
- トレーサビリティの確保の方法については、氏名・連絡先等の記入用紙を配付回収する等、各会場で以下留意点を考慮して決定すること。
- 個人情報の取扱・管理の責任者（会場または演奏者）を明確にすること。
- 連絡先の具体的項目（電話番号、住所、メールアドレス）等は、各々の判断にゆだねること。
- 「コロナウィルス対策としてのみ使用するもので、所定の日数（ex.30日）を超えたら廃棄する」旨を明記して個人情報を取得すること。

## ② 出演者に関する事

- 舞台上の密を避けるように出演者数を検討する。複数の場合、奏者間を 1.5m（出来るだけ 2m）確保する。
- 出演者は待機時にはマスクを着用する。また、可能な限り、演奏中もマスクを着用する。とくに声楽および管楽器は演奏時に声楽用のマスクおよび管楽器用のガードを着用する。
- 出演者の来館時に体温を測定し、37.5℃以上の方の入場を断る。
- 控えやトイレの密を避けるよう、着替えを行わない等工夫する。
- 出演者と来場者の接触を避けるように工夫する。

## ③ 来場者自身および来場者の接遇時に関する事

- 来場者および会場スタッフは常時マスクを着用する。
- 入場時に体温を測定し、37.5℃以上の方の入場は断る。
- チケットのもぎりは行わない。
- プログラムやチラシの手渡しは行わない。
- 催物の前後や休憩時間等に出演者との近距離での接触をしないように事前に告知するなど、確実な措置を講じる（挨拶や、お花・お菓子等のプレゼントの授受について工夫する）。
- トレーサビリティの確保の仕方につき、理解と協力を求める。

## 2. 自主企画演奏会実施について

- コロナウィルス感染防止策は会企画と歩調を合わせたものであり、コロナ禍に合わせた特別使用の申込フォームにより、計画内容を審査し、安全性が確保されていることを確認した後に承認するものとする。
- 提出された計画書通りに実施されているかどうかを撮影班などが実地にチェックする。

## 3. 全般

- 全ての募集においては、直前の中止の可能性を明記しておく。
- 申込者多数の場合の扱い（抽選など）について募集要項に明記する（出演者・来場者ともに）。